

■■降らないに、越したことない冬の雨■■

基本的に冬の関東地方は乾燥して雨が少ない。幸いなことに最近で開催期間中に雨や雪が降っていないが、過去には幾度か降った例があり、当然ながらなかなか大騒ぎ（次回のカタログのまんがレポートが”降られて大変だった”という記事で埋め尽くされる程には）となった。

夏にも増して冬の雨に濡れることは身体に大きな負担となる。また、言うまでもなくコミケットの頒布物のメインである同人誌は水に弱く、生半なカバンや紙袋では雨から大切な戦利品を守り通すことはできない。

降らずに済めば一番だ。しかし降ってしまったら、対策無しでは悲惨な結果は免れない。天気情報をこまめにチェックするのは当然としても、その予測を鵜呑みにせず、降雨降雪に対する備えは必ず持っておいて欲しい。

——■降っているならレインウェア■——

当然ながら、冬の場合は夏に比べて一旦服を濡らしてしまうとなかなか乾かない。濡れたのが上着ならまだしも、肌に直接触れる服まで濡れるとその先ずっと体温を奪われ続けることになるので、冬の雨（雪）対策ではとにかく服や靴の中に水を侵入させないことが重要になる。

行列時に周囲に多大な迷惑を及ぼすということもさりながら、何よりもこの命題に対して傘というアイテムはあまりに不十分だ。

夏に比べれば中に汗をかきにくいというメリットもあるので、この際身体の全体を覆える防水性能を持ったレインウェアを着込むのがベストなのだが、このタイプは脱ぎ着が若干不便なので、想定される自分の待機時間に合わせて以下に挙げる例から適切なタイプを選択してほしい。



① セパレートタイプ（透湿防水素材）

完全な形のレインギアで、ゴアテックス等の透湿防水素材を使用したものなら例えば土砂降りの雨の中で数時間待機しても快適さを保ったままほぼ浸水をゼロに保つことができる。また、このタイプは防寒着として十分な性能も満たしているの、下をかなり薄着にでき、オールラウンドな利便性を誇る。

反面、ズボン状のボトムsの脱ぎ着には若干の手間がかかるので、この際防寒着の一環と割りきってしまつて、下には動きやすい薄手のズボンかロングのアンダーウェア（化繊よりも静電気が起こりにくいウール等が良い）を履くにとどめ、会期中は脱がない、という選択肢もある。

最大の欠点は機能に見合って価格が高いこと。また、そもそも本格的なアウトドア活動用なので冬山用などを買ってしまうとコミケットの環境下ではオーバースペックでかえって快適性を失うので注意が必要。

② ロングコートタイプ（完全防水素材・高性能撥水素材）

膝下から足首までの防水に難があるので激しい雨の時には向かないが、防水のブーツ等と組み合わせればそのまま会場内に入れるので利便性は高い。ただし素材によっては風合いを優先し、防水素材ではあつても生地sの表面には水分を残すものもあるので、館内で他の参加者に迷惑をかけないためにも、事前に濡れたらどうなるのか、乾きやすさなどをチェックしておくとう良いだろう。

③ ビニール雨カッパ

ビニール系の素材でも厚みがあり、表面に撥水加工が施されているような高級なものであればしばらくは耐えることができるが、白ないし半透明の薄いビニール性のカッパは多少雨を防ぐことはできても長時間の待機には全く向かない。ただのビニールの素材は合わせ目などから雨水の侵入を許しやすいだけでなく、身体sの汗をうまく放出できないため、雨に冷やされた汗がカッパの内側で結露して結局服を濡らすことになるためだ。安価である、ということ以外にメリットがないこのタイプのカッパは、極小降りの際一時的に、あるいは雨の降っていない時にウィンドブレーカー代わりに使うようにしよう。

④ 屋外用作業着（防水素材）

本格的なアウトドアウェアに迫る必要十分な性能ながら価格的にははるかにリーズナブルなワークホースアイテムが土木・建築作業等の作業時に使われる作業用ジャンパー類だ。デザイン面に少々難があるが、正に現場仕様sの実力は見逃せない。大型ホームセンターや作業用品店で実際に袖を通して選ぼう。